

# **withコロナ社会における 生活で生まれた課題の明確化**

**—ICTが生活に寄与する可能性の観点から—**

---

**お茶の水女子大学永瀬ゼミ**

# 目次

1. はじめに

2. 調査の概要

3. 調査結果

  3.1 仕事

  3.2 教育

  3.3 生活

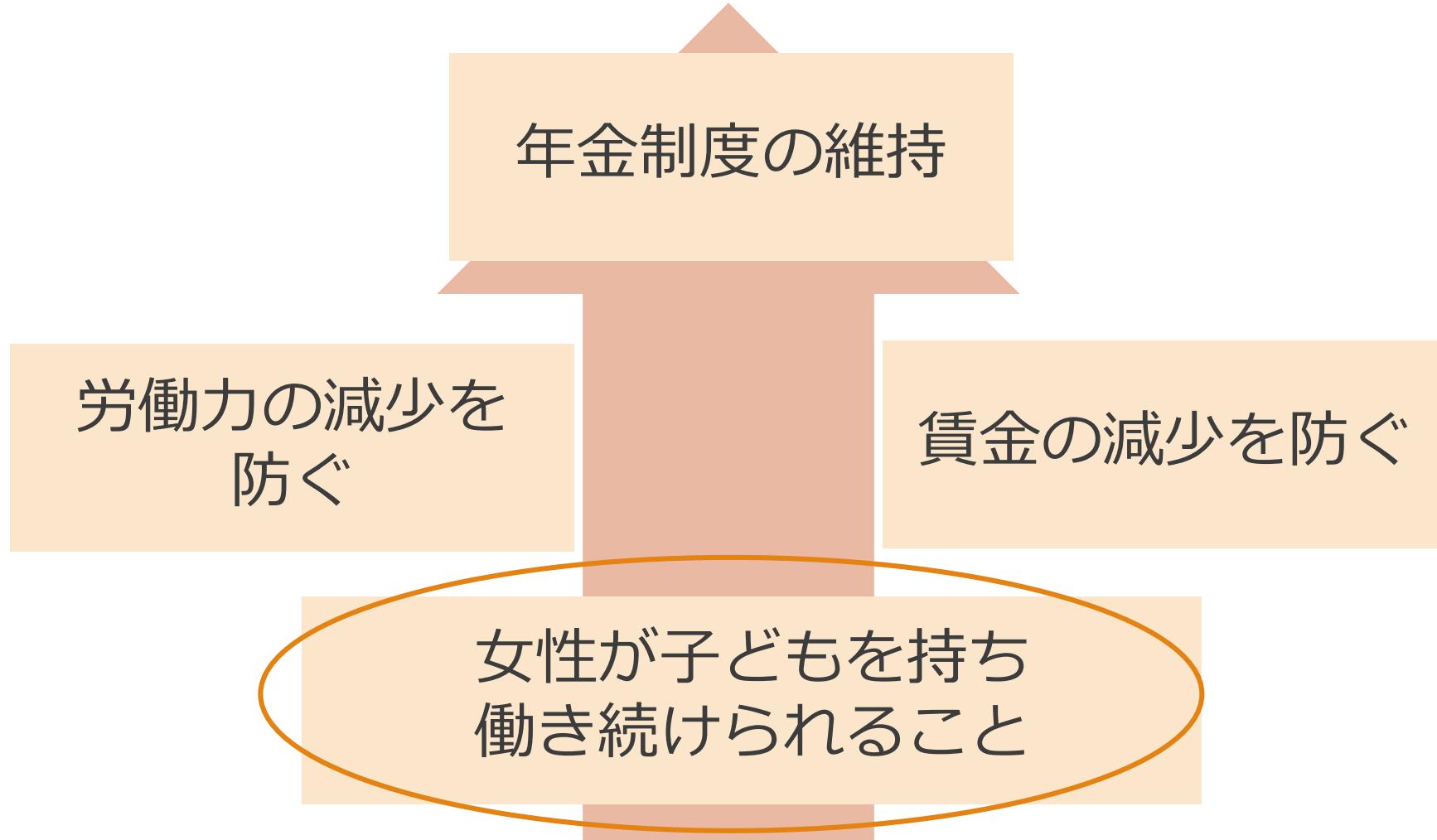
4. 考察



# 1.はじめに

新しい生活様式の中でも  
女性が育児と仕事を両立し  
働き続けることが出来るようになるには？

# 本研究の位置づけ



# 仕事の変化

## ①都内企業のテレワークの導入実態

2020/6/30調査

- 導入している
- 導入予定なし
- 今後予定あり
- 無回答

令和元年度

25.1 20.5 53.7 0.7

令和2年度

57.8 16.4 25.8

## ②毎月勤労統計調査（令和2年6月）

前年度比

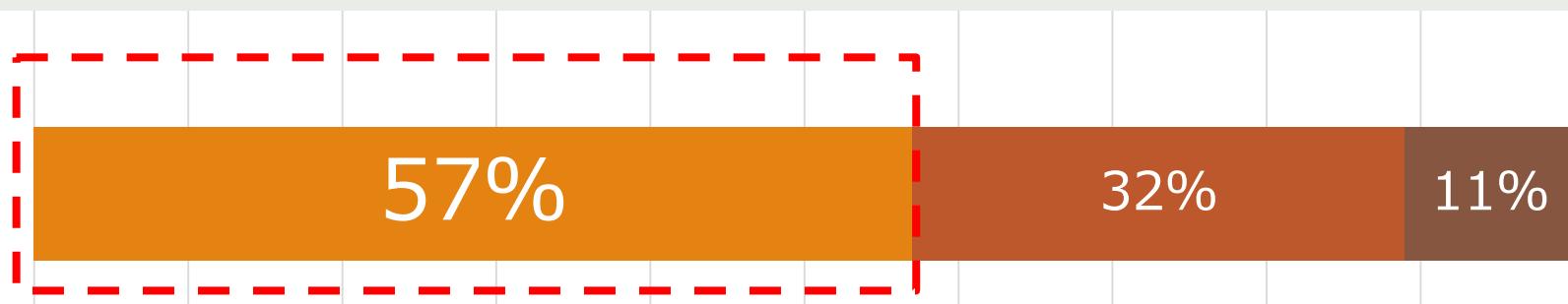
- 現金給与総額： 2.8%減\*
- 所定外労働時間： 23.9%減

\* \*：「一般労働者」

☆リモートワークの推進  
☆総労働時間の減少傾向

# 家庭の変化

今回の感染症拡大前に比べて、  
仕事への向き合い方などの意識に変化はありましたか。



■ はい

■ いいえ

■ わからない

家事・育児について、夫婦間の役割分担のやり方を  
工夫するようになりましたか。※「全国」



■ 感染拡大前より工夫するよう  
になった

■ 感染症拡大前から変化ない

■ わからない

## 家庭内活動の見直しが生じている可能性

1. はじめに

## 2. 調査の概要

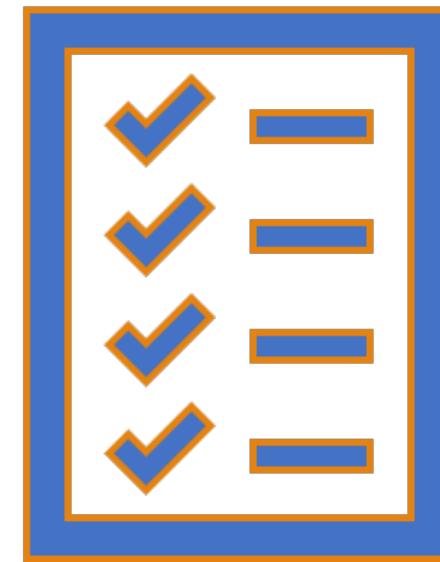
3. 調査結果

3.1 仕事

3.2 教育

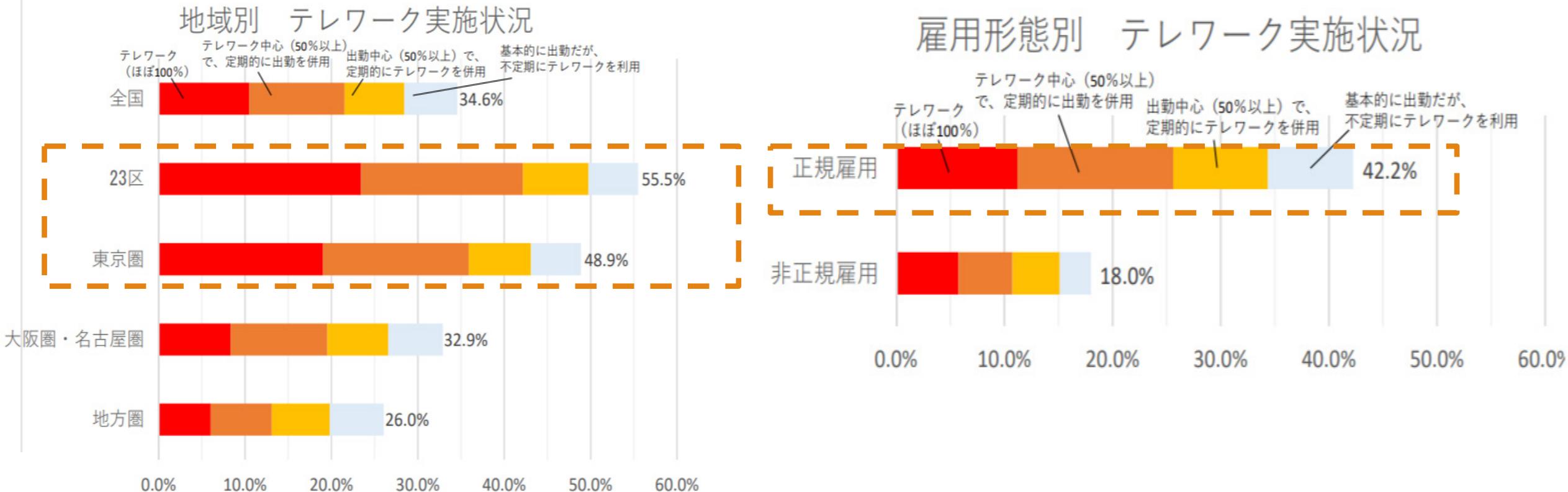
3.3 生活

4. 考察



- 方法：ビデオ通話を用いた聞き取り調査
- 対象者：子どもを持ち、夫婦ともに正社員として勤務している女性20名（次スライド参照）
- 期間：2020年9月～2020年10月にかけて
- 時間：45分程度
- 内容：
  - ①新型コロナウイルス流行前後における働き方
  - ②家事
  - ③お子様の教育

# 調査対象者について



調査対象者：テレワーク導入率が高い地域・雇用形態である

1. はじめに

2. 調査の概要

3. 調査結果

**3.1 仕事**

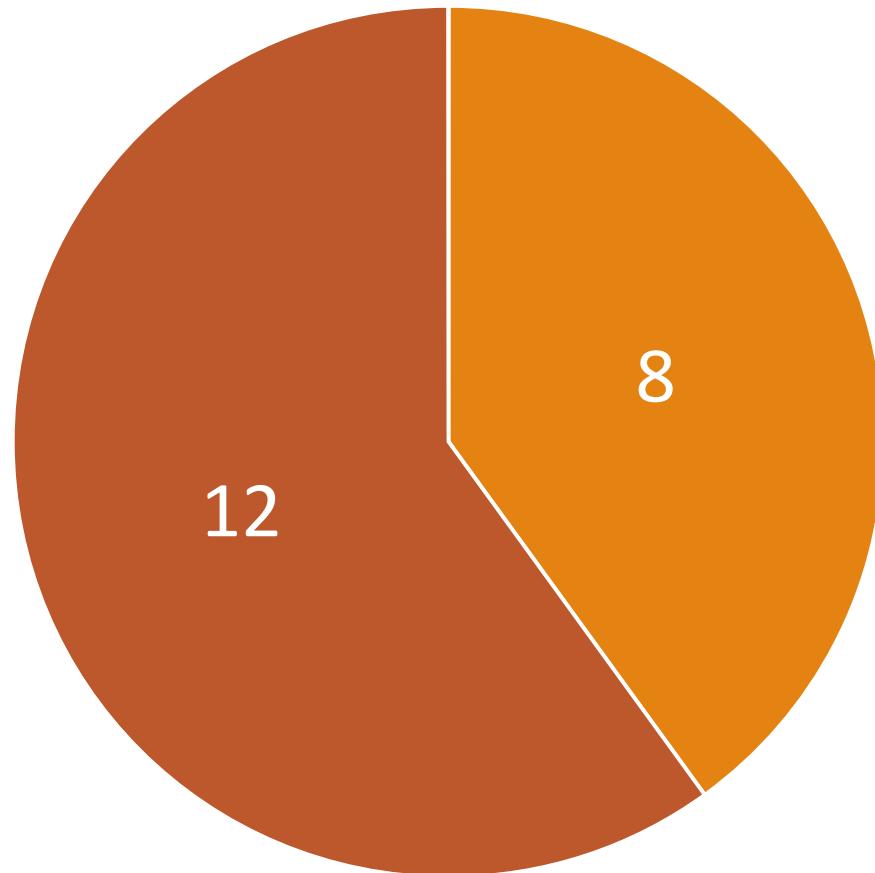
3.2 教育

3.3 生活

4. 考察



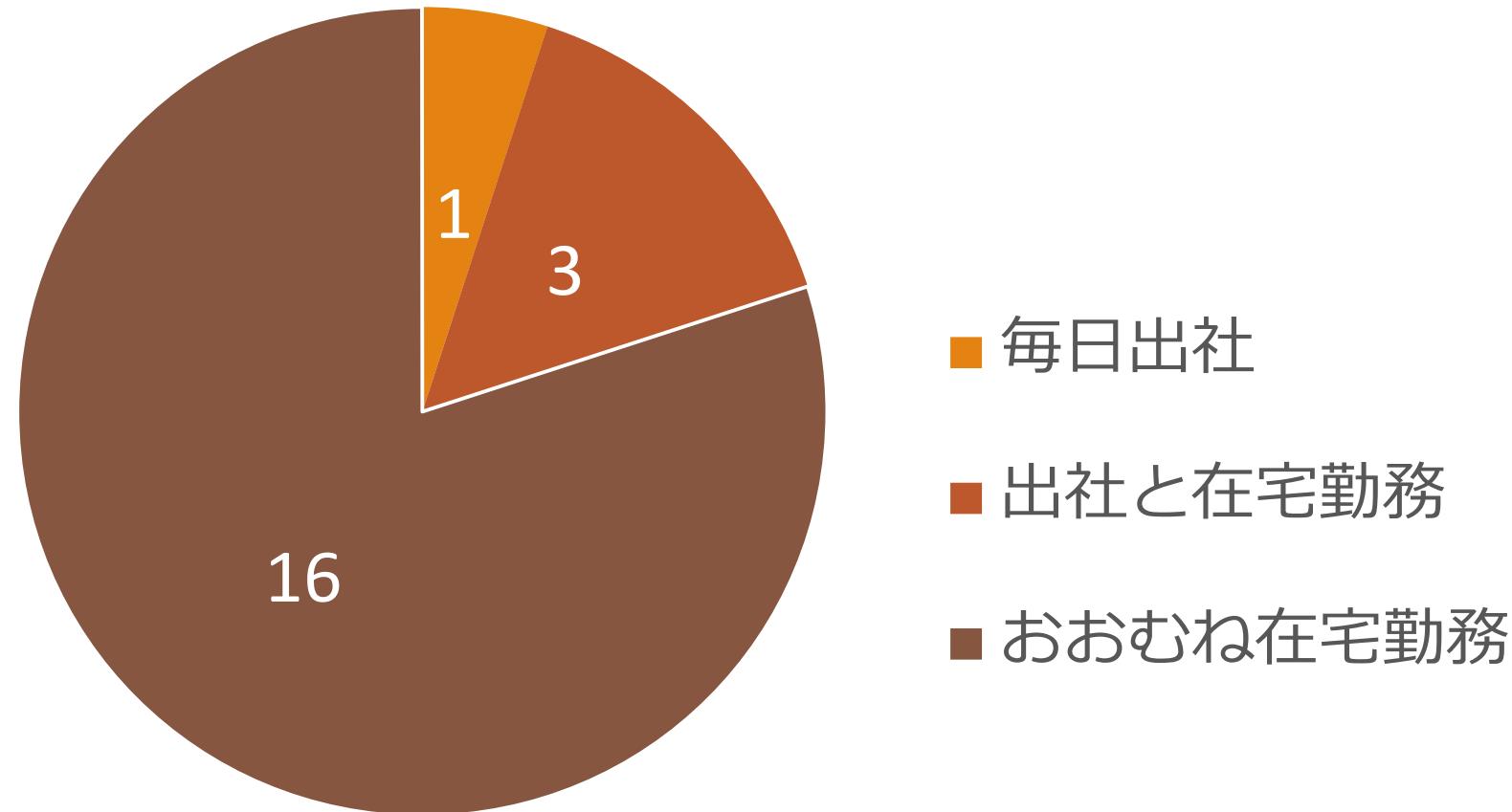
### 3.1.1.働き方（緊急事態宣言前）



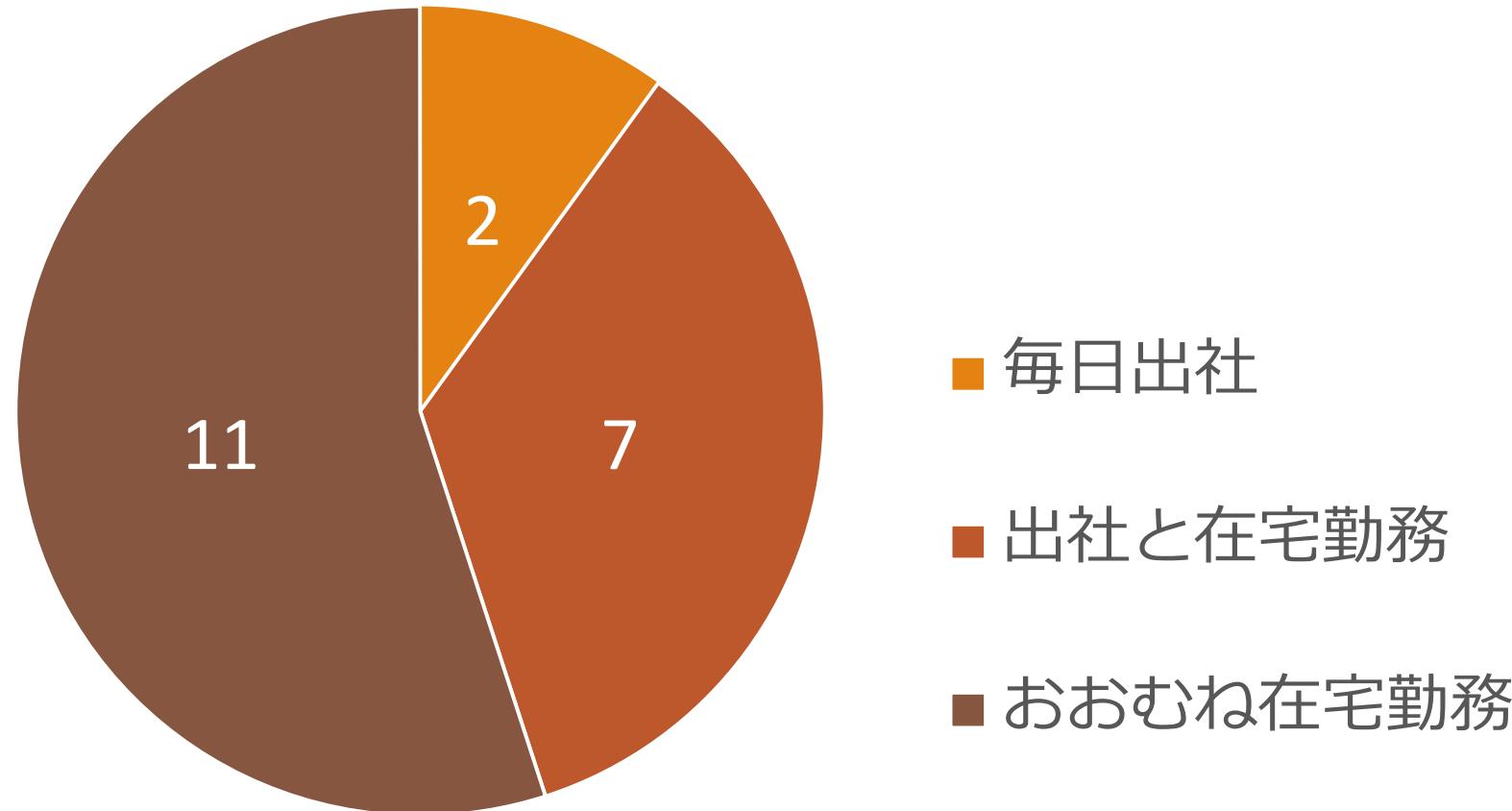
- 毎日出社
- 出社と在宅勤務

- ・会社が豊洲にあり、東京オリンピックに向けリモートワーク導入が段階的に進められていた。
- ・子どもの習い事の関係で日々在宅勤務を行なっていた。

### 3.1.1 働き方（緊急事態宣言中）



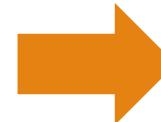
### 3.1.1 働き方（緊急事態宣言後～現在）



### 3.1.1 制度の変化

#### 緊急事態宣言以前

- ・週2回までテレワーク可
- ・在宅勤務の制度はあったが、会社の風潮から使いづらかった
- ・在宅勤務の制度はあったが、育児・介護がある人のみが利用していた



#### 緊急事態宣言以降

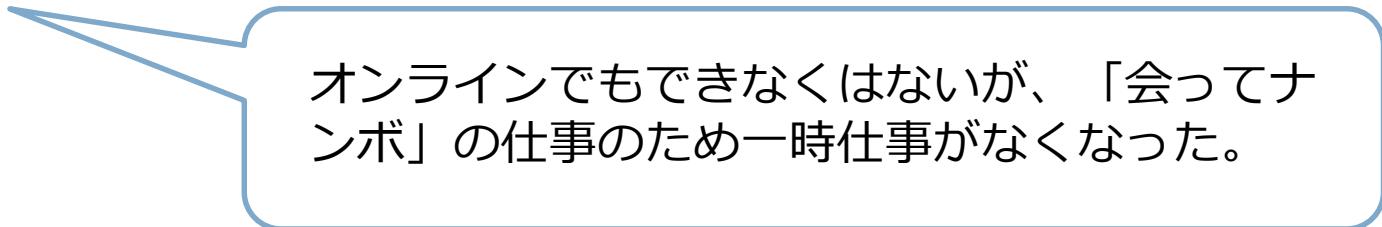
- ・完全にリモートワーク
- ・出社率を5割、3割に抑えるため出社を制限

### 3.1.2.リモートワークが可能な業務

- ・企画業務（製造業）
- ・開発業務（製造業）
- ・技術職（IT業）

### 3.1.2. リモートワークが難しい業務

- ・社内ネットワークでしか使用できないシステムを使用する管理職業務
- ・社外に持ち出せないデータの移行
- ・実験や計測など現物を扱う業務
- ・営業業務



オンラインでもできなくはないが、「会ってナンボ」の仕事のため一時仕事がなくなった。

### 3.1.3. リモートワークのメリット

時間面でのメリットが目立った。



今まで時短勤務を申請していたが、通勤時間がなくなりたことでその時間を勤務に当てられる。



昼休みなど自分で時間をコントロールできる。生活時間が増えてよかったです。

会議の時、以前はリモートでの参加は少数派で発言しにくい、聞き取りにくいなどの問題があったが、全員がリモート参加になったことで改善された。

### 3.1.3. リモートワークのデメリット①

コミュニケーション面でのデメリットが目立った。



雑談などがないため、淡白なやりとりになる。

会議や商談で目が合わないため  
相手の本意を捉えられない。

新人や異動してきた人など、一から関係  
を構築する時はオンラインだと難しい



複数名でのやりとりがスムーズでない。  
共通理解に時間がかかる。

### 3.1.3. リモートワークのデメリット②

#### コミュニケーション面以外のデメリット



図面・製品のモデルを見ながら話すのが  
非常にやりづらい。



会社印が必要な書類など、書類でのや  
りとりを基本とした業務が難しい。

生活と仕事の区別ができない。  
家族に静かに過ごしてもらうなどの制限をかけることが心苦しい

1. はじめに

2. 調査の概要

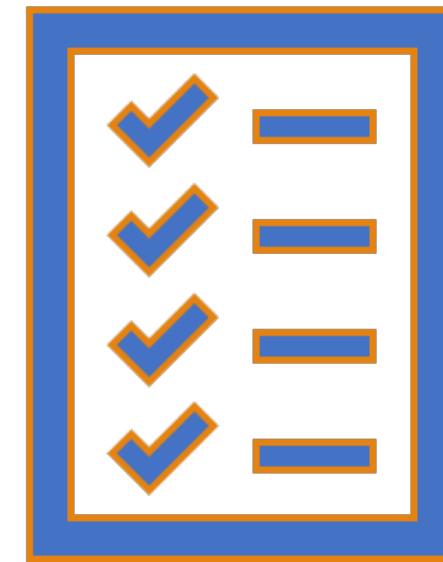
3. 調査結果

  3.1 仕事

**3.2 教育**

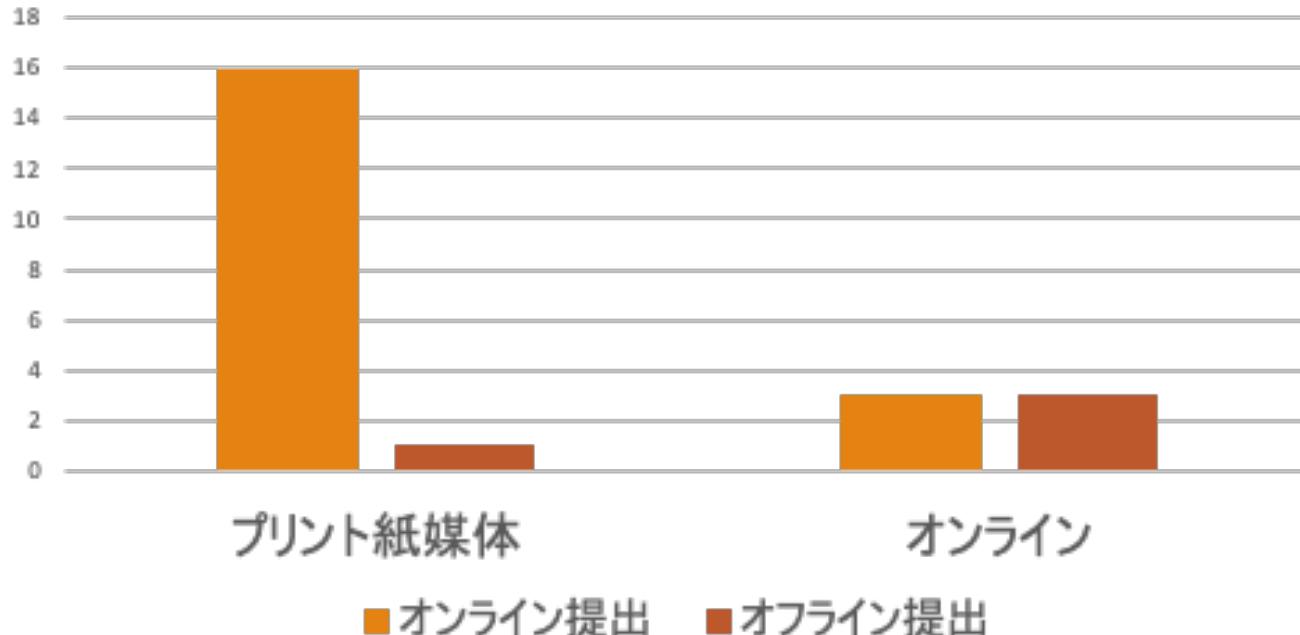
  3.3 生活

4. 考察

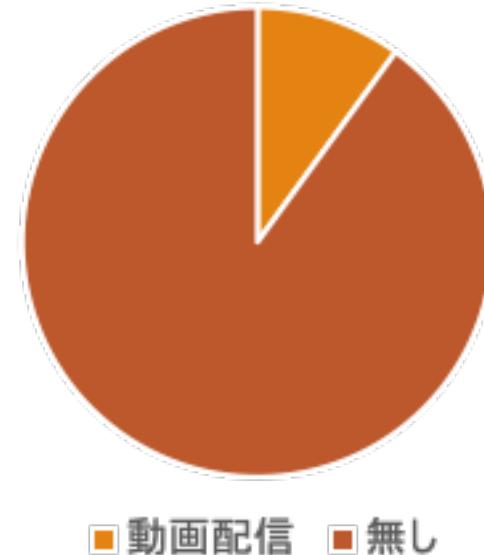


### 3.2.1.学校の対応について

課題形式



授業形態



オンライン活用は少数派

### 3.2.1.学校対応に関する意見



担任の先生が各家庭に電話をして、課題の優先順位を  
伝えてくれた。



提出する方法・期限や課題に対するフィードバックが  
欲しかった。

小学校からの具体的な指示やフォローの有無が評価を左右

## 3.2.2.家庭学習についての意見



子どもが取り組んでいる様子を目の前で確認でき、アドバイスした後に成長していることを感じられた。

小一の子には読み書きを一から教えないといけなかつた。

子どもの得意不得意を知ることができた。



子どもがいかに時間を使うかを考えることに苦労した。

## 3.2.2.家庭学習に対する工夫点



1日の時間をどう過ごすかを子どもと共有するため、「我が家時間割」を作った。

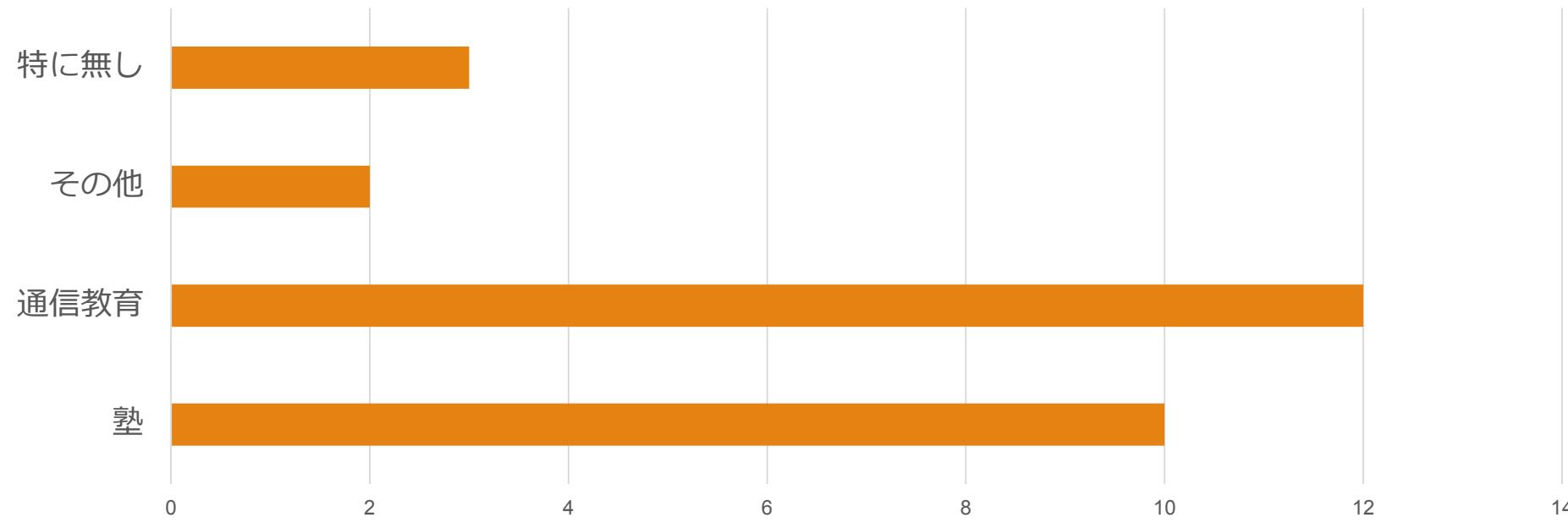
子どもの集中力を継続させるのに一番良いレイアウトにするために試行錯誤した。

「やるべきことが終わったら、ゲームをしていいよ」とご褒美を与えることで、子どものやる気を引き出そうとした。

## 3.2.2. 家庭学習の種類

通信教育では専用タブレットを使用する形態のものが多く、塾は感染拡大に伴いオンライン授業が実施されていたことがわかった。

家庭学習として利用したサービス（複数選択可）



### 3.2.3. デジタルツール導入について賛成か反対か



タブレットを配布するなどできるところから始めてほしい。



自宅でもデジタルツールを使うとなると結局誰かのフォローが必要になってしまう。

伝達事項や欠席連絡などアナログで不便が多いので、いろいろな情報をデジタル化してもらえると助かる。

公立の学校にはデジタルツールの導入よりも先にやらなければならないコアな部分がある。

### 3.2.3. デジタルツール導入について賛成か反対か



学校を欠席した時のフォロー教材として使用するのに良いのではないか。しかし**教育格差が経済格差になる可能性**から懸念する点もある。

結局デジタルツールを利用して、紙に書いて覚える学習方法はなくならないのではないか。オンラインだと**定着度が心配**。

デジタル環境の差によって**教育格差**が生まれることや**定着度の低下**を危惧する声も上がった

1. はじめに

2. 調査の概要

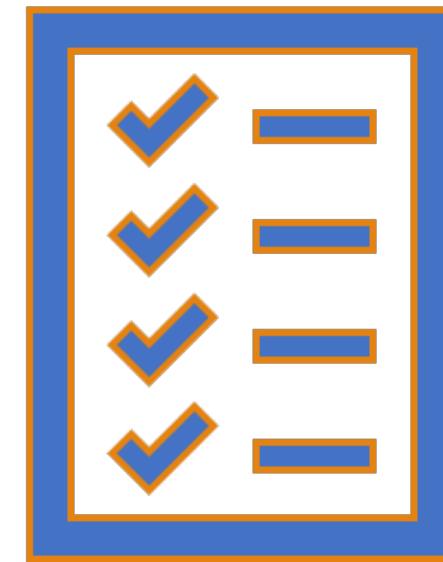
3. 調査結果

  3.1 仕事

  3.2 教育

**3.3 生活**

4. 考察



### 3.3.1. 家事分担の傾向

在宅勤務をする ≠ 家事へ積極的に参加する

#### 出勤形態

夫婦共に在宅勤務に移行

夫婦共に出社

妻が在宅で夫が出社

妻が出社で夫が在宅

#### 家事参与

配偶者の家事参加変化

配偶者の家事への満足度

家事参与 = 各世帯ごとの価値観・考え方 に依拠

### 3.3.1. 家事に関する良い変化

夫も見えていなかつた家事に気付いてうまくお互いをフォローできるようになった

家事をしている間、夫が子どもを見ていてくれるので楽

料理をやってくれるようになった

在宅になったことで分担できる作業が増えた

### 3.3.1. 家事に関する悪い変化

コロナ禍で自身が料理をするようになって配偶者がやらなくなつた

配偶者が在宅勤務で以前より働くようになり家事の分担ができなくなつた

在宅勤務なので家事の手抜きはNGというような配偶者の態度

### 3.3.1. 炊事に関する工夫

- ・ インタビュー参加者20人中18人が増えたと回答した家事「炊事」への対処法

デリーバリーサービスの利用  
ex.オイシックス

ミールキット・レトルト食品  
冷凍食品の活用

子どもが炊事を担当した

### 3.3.1. 配偶者の家事貢献に対する満足度

「休校期間前」「休校期間中」「休校期間後」で  
配偶者の家事貢献に対する満足度に  
**変化があったと回答した人：6人**

満足度が上がった人：4人

満足度が下がった人：2人

### 3.3.1 夫の家事貢献に対する満足度が上がった妻

コロナ禍以前

自分が負担している家事が多い

コロナ禍

夫が在宅勤務に



今まで妻だけが負担していた家事を夫もするよう  
に家事分担が変化

※特に「名のない家事」に対する不満度が高かったが、解消された家庭が多い

## 夫婦の家事分担

夫が在宅勤務になったので、洗濯・料理・娘の学習指導などを  
ほぼ任せることとなった。

コロナでやらなければいけない家事が増えたけど、夫がかなり分担してくれた。  
**日用品の補充や調味料の買い足し、ゴミ出しの一連の流れなど、**  
気付いた時にやってくれる。

**家にいさえすればできる作業**、洗濯とか、**宅配受取**を対応してくれるだけでも  
非常に助かった。在宅勤務になってから、夫婦間で分担できる作業が増えた。

夫は通勤時間がなくなったことで、家事に協力してくれるようになった。  
**家庭の様子を聞き取る学校からの電話の対応や、宅配の対応など。**

### 3.3.1 夫の家事貢献に対する満足度が下がった妻

何らかの原因で**夫のする家事の量が減った**場合、満足度が下がっている

- 事例① 在宅勤務導入によって夫の仕事がより忙しくなった
- 事例② 育休中よりも夫の家事の量が減った

「夫が家事をやってくれた実績」があるのに、  
家事をできなくなったり・やらなくなったりの場合に満足度が下がっている

### 3.3.1 満足度が下がった事例①

- ・在宅勤務導入によって配偶者の仕事がより忙しくなった

配偶者は、週 1 度の出勤があるが、主に在宅勤務をしている。元々かなり仕事が忙しかったが、コロナによって在宅勤務が可能になったため、**曜日にかわらず朝から晩まで働くようになった。**コロナ以前、**土日に**子供をお風呂に入れたり寝かしつけをしたりという家事をしていたが、それができなくなった。

### 3.3.1. 満足度が下がった事例②

育休取得中に分担していた家事を夫がしなくなつた

配偶者は1年間育休を取っているので、家事の大変さが  
わかっているにも関わらず最近はサボり気味で不満が溜まっている。

育休明けは指示待ちではなく積極的に家事をやってくれていたが、  
今はそれが薄れてしまっている。

### 3.3.2. 両立の様子（小学校休校期間中）

- ・通常時：子どもと同じ部屋
- ・会議・ウェブセミナー時：子どもとは別の部屋

リビングで子ども2人を見ながら仕事をしていた。

ウェブセミナーの仕事が入った時は、  
静かにするよう子どもに事前に伝えていた。

### 3.3.2. 両立における困難

常に子どもの様子を気にし、  
声掛けを行う必要があった。

子どもが仕事中に話しかけてきてし  
まった。

子どもが騒いでしまい、  
静かな環境でなかつた。

子どもがいる中での在宅勤務は、仕事に集中することが難し  
い。

### 3.3.2. 当時の心境

仕事と育児の両立はとにかく大変で、大きなプレッシャーを感じた。

仕事と育児の両立は不可能だと割り切って、仕事を緩やかに行つた。

仕事を優先して、子どもを放置してしまったことに負い目を感じた。

仕事と育児、どちらを優先したかで母親の心境は大きく異なる。  
両方を完璧にこなすことは不可能に近い。

### 3.3.3. 日常生活におけるICT, IoT利用

#### ①仕事面

- ・20人中18人：主な働き方が「在宅勤務」へと変化

→新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけにリモートワーク推進

実際に首都圏の正社員女性に働き方の変化が生じている

#### ②教育面

- ・学校からの連絡・保護者会のオンライン化、  
学習塾の双方向型オンライン授業、アプリやタブレット教材の利用  
オンラインという選択肢

### 3.3.3.日常生活におけるICT, IoT利用

#### ☆自主的なICT活用

午前と午後の**勉強開始の時に同じ小学校の3人くらいと**  
LINE通話やzoomを繋ぎ、子供が友達と声を掛け合って  
**勉強に集中して取り組むように工夫した。**

#### ☆今後の技術に期待されるもの

あつたら良かった＜教育ツール＞は、**オンライン家庭教師**。  
あつたら良かった＜家電＞は、冷蔵庫の中にあるもので**勝手に調理してくれるような機械**と、**洗濯物を自動で畳んでくれる機械**。

### 3.3.3. 外部サービス利用による家事負担軽減の事例

☆AI家庭用電気機器：ロボット掃除機、スマートスピーカー

☆食材宅配サービス

コロナ禍以前より利用していたパルシステムは、  
1ヶ月の支払い金額が5千円程度から1万～1万5千円程度に上がった。

食材はいつも生協で購入。3社利用しており各メーカーで取り扱っている  
ものが違うため、子供のアレルギーに対応した商品を購入している。

### 3.3.3. 外部サービス利用による家事負担軽減の事例

AI, ICT, IoTやデジタルツールは、仕事・教育・家庭と生活のあらゆる場面で必要不可欠なものになっている

新型コロナウイルス感染症拡大による生活様式の変化で、身近な**利用の幅が広がった**

【電子機器や外部サービス活用→仕事の効率化・家事負担の軽減へ】

1. はじめに

2. 調査の概要

3. 調査結果

  3.1 仕事

  3.2 教育

  3.3 生活

**4. 考察**



## 4. 考察

### 仕事

- ・リモートワーク推進は継続的である
- ・適応していくこうとする志向性

### 教育

- ・子どもの教育方法を模索（それに伴う不安）
- ・デジタルツール導入への意識の高まり

### 生活

- ・生活時間の増加（出勤頻度の低下）
- ・外部サービス、家事共同による高い満足度
- ・「やりとり」がオンライン化した便利さ

様々なツール・サービス（選択肢）を  
生活に取り入れられるか

## 4. 考察

「育てやすく働きやすい」社会構想へ向けて

- ①既存の価値観に対する検討の必要性
- ②様々な方法で実態を把握すること

生活を俯瞰的に捉える

柔軟な施策の検討

# 参考文献

厚生労働省「毎月勤労統計調査 令和2年6月分結果速報」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/monthly/r02/0206p/dl/pdf2006p.pdf>

(最終アクセス：2020/11/17)

厚生労働省「国民年金及び厚生年金に係る 財政の現況及び見通し－2019（令和元）年財政検証結果－」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000540199.pdf>

(最終アクセス：2020/11/17)

東京都「テレワーク導入実態調査結果」

[https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2020/09/14/documents/10\\_01.pdf](https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2020/09/14/documents/10_01.pdf)

(2020/11/20アクセス)

内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における 生活意識・行動の変化に関する調査」,10頁,15頁,28頁

<https://www5.cao.go.jp/keizai2/manzoku/pdf/shiryo2.pdf>

(2020/11/20アクセス)

毎月勤労統計調査 令和2年6月分結果速報

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/monthly/r02/0206p/dl/pdf2006p.pdf>

(2020/11/20アクセス)

東京新聞（サンデー版） 11月8日記事

ご清聴  
ありがとうございました